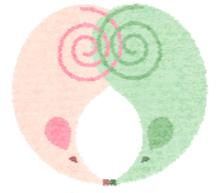


EHIME ROUSAI HOSPITAL KANGOBU NEWS NURSE LETTER **9** Month



学会報告

第39回日本看護学会—成人看護Ⅱ—

南4病棟 赤川佳美

成人看護Ⅱの学会が、9/4、5の2日間名古屋国際会議場で～慢性疾患看護の『質』を問う。生命・生活・人生を支える～というテーマで開催されました。内容は、「慢性疾患看護の新たな視点として、病棟と外来・外来と地域の連携の必要性」「看護職の専門性や領域が拡大するなか、慢性疾患看護技術の重要性を訴える視点から、生活を支援するテクノロジー」について、発表・シンポジウムが行なわれました。わが国は、慢性疾患患者が増加し、療養期間も長期化しています。その背景から、病院と地域の連携が進められ、療養の場が地域へ移行され、セルフケアを高める看護が求められているのが現状です。患者の人生を支えるためには、患者の声に傾聴し、心に寄り添う気持ちで接する事が大切です。また、適切な看護、指導が出来る為には、積極的な学習の姿勢が必要であると感じました。CHANCE!みんなの力をひとつに!! 頑張りましょう!

日本糖尿病教育・看護学会学術集会

外来 岡野 三恵

行ってきました。金沢!と、言っても「日本糖尿病教育・看護学会学術集会」という大変権威ある学会へ初参加させて頂いたのですが・・・「わざとエビデンス(技術)の融合」というテーマに沿って、沢山の新しい患者教育方法や取り組み、治療方法を学んで来ました。私は外来勤務なので、やはりフットケアについての講演や糖尿病足外来の取り組み、患者・家族との関わり方、診療報酬の管理料算定の動向等を興味深く拝聴しました。特に、東大病院の足外来の取り組みは、興味深く、一人に30分という限られた時間の中で、4人のスタッフが視診・深部温測定・エコー・触診などを通して、潰瘍前段階での処置・アセスメントを行い、治療にあたっていますが、これが如何に難しい事で重要であるか、また必要であるかを再認識しました。また、蛆虫療法(潰瘍を形成してしまった所に無菌培養した蛆虫を放すと、腐敗した組織のみを食べるらしい。)という新しい治療法を知り、目からウロコでした。これを機会に患者さまともっとよい関わりが出来るよう頑張りたいです。

CHANCE!みんなの力をひとつに

本当に助かってます!!

南5病棟 内川真千子

皆さん、我が南5には、裁縫の得意なボランティアさんがいるんですよ!南5では心カテ患者様が検査衣を着て、車イスに乗ってカテ室に出棟します。この時検査衣だけでは、なんだか肩から腕がまるだしになってしまうのですが、ここでボランティアさんが作ってくれた「リバーシブルケープ」が登場!!患者様の身体の露出を避け、手作り感バッチリのケープにつつまれてもうバッチリ!そして私たちが車イス片手にもつかるとフィルム・・・これを車イスサイズに合わせた“袋”に入れると、まあどうでしょう!!なんとOK!片手で車イスを押すこともないんです。そして、休憩室には私たちの安らぎのためのクッション!患者様の安全・安楽はもちろん、私たちにも心のやすらぎを与えてくれているボランティアさん。その名も「明星操さん」知る人ぞ知るかつての労災病院のNs. 今働いている私たちが負けずにがんばって行きましょう。だって、「うちら看護部頑張るけん!」ですものね!!



リバーシブルケープ



車椅子サイズの袋

つばやき・・・ SEP.2008
こころが広々している日は
遠くまでよくみえる。